

## カードスキミング被害増加に関する注意喚起

1 在フィジー日本国大使館では、邦人が関係する犯罪被害が増加していることから、邦人の皆様の安全確保について、先日フィジー警察長官代行に申し入れを実施しましたが、その後もカードスキミング被害の報告が後を絶ちません。つきましては、特にフィジー国内でのクレジットカード及びデビットカード等の使用は極力お控えになることをお勧め致します。なお、実際の被害事例を参考に被害防止に努めてください。

### 2 被害事例1

リゾートホテル（ラキラキ）にチェックインの際に、デポジットのためにクレジットカードの提出を要求されたが、不審に感じたためカード番号のみを宿泊者カードに記載。チェックアウト時は、全て現金にて支払いを実施するとともに、宿泊者カードに記載したカード番号は消した後に帰宅の途に就いた。数日後、クレジットカード会社から米国にて複数回にわたって総額約9万円が何者かによって引き出された旨の連絡を受けた。このケースのようにカードの暗証番号やセキュリティコード（裏面に記載された番号）の情報がないのに、クレジットカードを不正に使用されるケースが増えています。特に、ホテルの予約やチェックインの際にクレジットカード番号を求められることが多いと思いますが、可能な限り他者に情報を漏らさないように十分注意して下さい。

### 3 被害事例2

ナンディ町の商店にて買い物の代金をデビットカードで支払おうとしたところ、店員から通信不良と言われ、複数回暗証番号を入力した。（このときは、結局カードでの支払いは出来なかった。）約1週間後、数日にわたり10数回も現金が何者かによって引き出されており、当事者は全く身に覚えがなかったため、銀行・カード会社に連絡するとともに警察に被害届を提出した。このケースに限らず、一部の当地銀行のATMにてキャッシュカードで現金を引き出した後に、身に覚えのない日時に現金が勝手に引き出されるケースも増えています。ATMで現金を引き出す際には、不審なカメラやスキミング装置が設置されていないか等十分確認されることや折りを見て暗証番号を変更されることをお勧めします。また、信用できる店以外ではクレジットカードやデビットカードを使用せず、現金で支払う方が安全と言えます。

4 日本大使館では、今後も継続して犯罪被害情報の発信を行います。カードを使用した場合は、取引記録をチェックして、不審な取引が認められる場合は速やかに発行元のカード会社等に連絡して下さい。もし被害に遭われた場合は、必ず最寄りの警察署に被害届を提出し、在フィジー日本国大使館にもお知らせ下さい。